

◆ 1. 様々な関係者の意識向上と協力強化

■ 1-2. 教育局職員を対象としたワークショップ



バスラ教育局職員向けのワークショップは、今回で第4回目を迎える。今後6カ月内に、当団体からバスラ教育局へと事業活動のハンドオーバーを行うべく、その計画を共有した。



グループワークでは、「学校運営委員会を通じた学校改善」と「子ども会を通じた子ども参加の推進」の2つのガイドライン案の中身について話し合った。

■ 1-5. 「学校運営委員会を通じた学校改善」対象校の拡大



新規対象校の SMC を対象としたマネジメント能力向上のためのワークショップの様子。



これまで当団体と協働してきた教育局職員も研修に参加し、学校関係者の指導にあたる。



これから学校の修築工事を開始するにあたり、新規対象校の SMC 会合では、モニタリングの方法について話し合う。



SMC 会合の様子。体系立った項目に沿って、子どもの学習環境を、評価していく SMC のメンバーたち。

◆ 2. 学習環境の整備

■ 2-4. 環境整備対象校の拡大



新規対象校の教員を対象とした衛生教育研修。研修会場となった学校に通う子どもに実演に参加してもらった。



今回の新規対象校向け衛生教育研修は、教育局職員が講師を務めた。



衛生教育研修を受けた教員が、各学校に帰り、全生徒を対象に、11・12月の2ヶ月で、衛生教育を行っていく。



子どもたちも、他の子どもたちにメッセージを伝える側として、衛生教育セッションに参加する。



10月に新学期を迎え、新規対象校でも、清掃活動を再開。第2期に作成した清掃の啓発用ポスターで、子どもたちに清掃の重要性を知ってもらう。



子どもたちによる清掃活動の実施。

◆ 3. 学校における「子どもの参加」の促進

■ 3-7. 「子どもの参加」促進活動対象校の拡大



新学期がはじまり、子ども会もスタート。第一回目の活動は、  
絵画を通じた啓発ノートの作成。



啓発ノート作成のセッションでは、日本企業フェリシモさん  
から寄贈された500色の色鉛筆を利用。



新規支援対象校の教員全員を対象とした「子どもの参加」研  
修の様子。講師は、4名のバスラ教育局職員が務める。



子どもの権利と参加は、バスラ県の教員にとっては、まだ  
まだ新しい考え方。最初は戸惑うことがあっても、研修を  
通じて理解を深め、高い関心をもつ教員たちが多く、と研  
修講師を務める教育局女性職員が語る。